

富山県立魚津高等学校 アメリカ研修四日目報告書

今朝は－4℃程まで冷え込み、痛いほどの寒さとなりました。皆、顔を強張らせ「寒い・・・」と言いながらも、元気に登校して来ました。今日は電車があまりに混雑しており乗ることが出来ず二回見送ったと言う女子生徒のペアの他、寝坊をし遅れてしまったペアがいました。疲れや慣れも出てくるころですが、今一度気を引き締めて後半戦に挑んでほしいと思います。

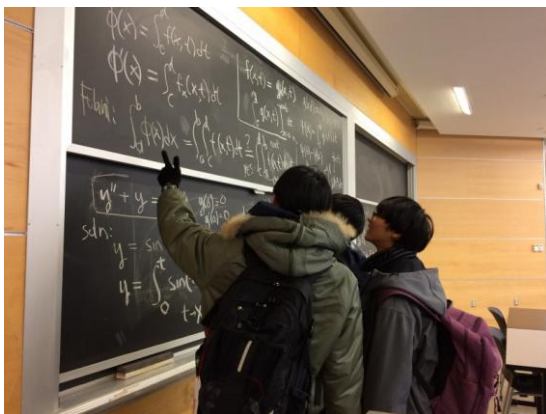
今日の日記にはまず、昨日の授業で全く歯が立たなかったことへの悔しさと不甲斐なさ、クラスメイトの留学生のレベルの高さに圧倒されたことが印象強く記されていました、外国人留学生と自分たちは何が違うのかを分析し、自分たちにはスピーキング力、コミュニケーション力が足りていないが、文法やライティングは負けていないなど、昨日一日で多くの気づきがあったようです。話題を振られると答えることはできるが、会話のスピードについていくことが難しいということで、グループでのディスカッションでも傍観者となってしまいがちです。「わからない」「もう一度説明してください」などと言うことで、周りも丁寧に教えてくれたり、ゆっくりと話してくれたとも書いてあり、空気にならず自ら発信していくことで状況を変えられることも、実際に体験した生徒は感じているはずです。ホストファミリーとのコミュニケーションは日に日に増え、お土産などの日本から持参したツールを駆使し、交流をしているようです。一つ勇気を出せば、その結果が返ってくることに気づき自信につながっています。この努力を学校でも発揮し、昨日できなかったことを一つでも達成できるように残りの日々を精一杯過ごしてほしいと思います。

本日の午後はハーバードと並ぶボストンの名門大学 MIT(マサチューセッツ工科大学)を訪れました。今日は東京大学工学部化学生命工学科を卒業され、その後 MIT に進学された吉永さんにキャンパスツアーを担当していただきました。昨日に引き続き、この情報だけで“なんだかすごい人”が来てくれるとツアーを待つ間は期待と好奇心でいっぱいでした。実際の吉永さんは聡明で自分の意思をしっかり持った若者ですが、なによりもユーモアに溢れ、フレンドリー。生徒たちのどんな質問にも気軽に答えて頂き、なぜ MIT なのか、ボストンがどれほど魅力があるのかということも熱心に語ってくださいました。今生徒たちが苦戦している英語についても、「将来話せない仕事にならない」ときっぱり。しかしながら今でも英語で受ける授業は苦戦していると言い、ポイントは相手を理解すること、そして自分の存在をアピールしていくことが大事との言葉は皆の心に突き刺さったのではないかと思います。なにより、自分の研究を楽しみ、将来に向かってまっすぐ進んでいる姿は生徒たちにとってとてもまぶしく映ったはずです。自分の将来を考える上で、今後思い出すだろう素敵な先輩との出会いとなりました。

MIT キャンパスツアー



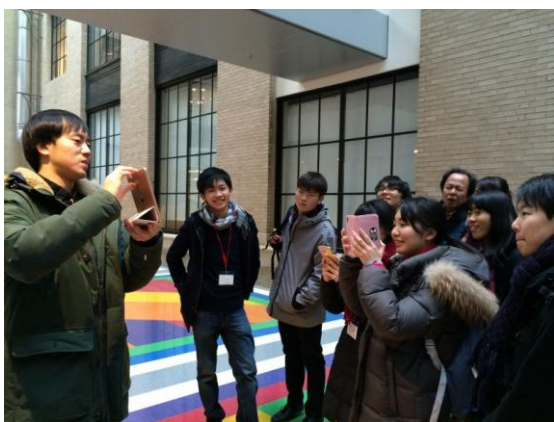
吉永さんの話に聞き入る生徒たち



数式を読み解く男子生徒



実際の教室で



MIT 名物“イタズラ”の写真に吃驚



生徒からお礼の言葉



吉永さんと記念の一枚